



埋文だより

第74号

平成29年10月31日発行

新たな県指定史跡へ！ 金山水車（轟製錬所）跡



製錬に使用したと思われる坩堝るつぼ

県道^{えいちらん}頰娃知覧線（南薩縦貫道：知覧道路）改築事業に伴う発掘調査が行われた金山水車（^{かねやますいしゃ}轟製錬所とどろきせいれんじょ）跡（南九州市）が、貴重な近代産業遺産として、現地に保存されることになり、平成29年4月21日に県指定史跡になりました。

金山水車（轟製錬所）跡は、明治の終わりから昭和の初めにかけて^{そうぎょう}操業していた「^{みやうちこうざん}宮内鉾山轟製錬所」の跡です。直線距離で約8km離れた赤石鉾山（南九州市）から荷馬車で金や銀の鉾石を運び、麓川の水力で水車を回して鉾石を細かく^{くだ}砕き、金や銀を取り出す作業を行っていました。

平成26年度の発掘調査によって水車に水を引き込む^{どろいこう}導水溝や水車を設置したと考えられる水車坑^{すいしゃこう}、それに関連する建物跡等の詳細が明らかになりました。

目次

- ・新たな県指定史跡へ！（金山水車跡）…………… 1
- ・発見！発掘速報…………… 2
- ・上野原遺跡今昔…………… 3
- ・遺跡詳解（木佐木原遺跡）…………… 4・5
- ・発掘現場公開！（久慈白糖工場跡）…………… 6

発見！ 発掘速報

今年度、発掘調査が行われている、
県立埋蔵文化財センターと（公財）
埋蔵文化財調査センターの発掘調査
成果の一部を紹介します。



昔から住みやすい場所！

～小牧遺跡（鹿屋市）～



小牧遺跡は、鹿屋市串良町細山田にあります。シラス台地として有名な笠野原台地の東の端にあり、すぐそばを串良川が流れています。発掘調査は今年で3年目になり、これまでに、中世の集落跡や古墳時代の住居跡、縄文時代の祭祀・儀礼の跡など、様々な時代の遺構や遺物が数多く発見されました。

今年も、平安時代の掘立柱建物跡や古墳時代の堅穴住居跡、弥生時代の堅穴住居跡や貯蔵穴跡、縄文時代の堅穴住居跡や集石遺構、旧石器時代の作業場跡などの発見がありました。今は周りにサツマイモ畑が広がる小牧遺跡ですが、近くに川が流れ、見晴らしがよく、昔の人々にとっては住み心地のよい場所であったようです。



旧石器時代の遺物出土状況



縄文時代の集石遺構



古代の掘立柱建物跡



調査風景



古墳時代の堅穴住居跡

割れずに残った鉢

～六反ヶ丸遺跡（出水市）～



南九州西回り自動車道建設に伴い、出水市六月田町に所在する六反ヶ丸遺跡の確認調査を行いました。表土のすぐ下からは、弥生時代から古墳時代の遺物が発見されています。その下層は、縄文時代の後晩期の層が安定しており、多くの土器片と完形に近い鉢も発見されました。表土から比較的浅いところから、周囲が住宅地であるにもかかわらず割れずに完形に近い土器が発見できたのも、米ノ津川下流域で、自然堤防による水田地域が広がっているおかげかもしれません。9月から本調査が始まりました。中世の柱穴跡も出てきていることから、多くの発見が期待されます。



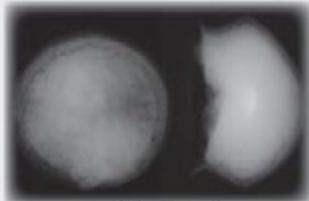
鉢の出土状況



鉢の拡大図



完形に近い鉢



X線透過撮影画像

上野原遺跡今昔

② 円筒形と角筒形、 そしてレモン形土器の発見

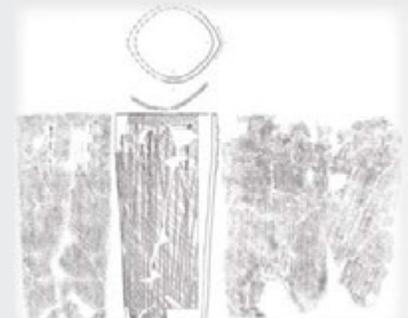
上野原遺跡の集落跡から出土した縄文土器の文様は、縄目ではなく、主に「ハイガイ」や「サルボウ」といった海に生息する貝で施されています。

形は、上から見た形が○の円筒形と□の角筒形があり、胴部は筒状、底部は平らになっています。

角筒形は全国でもほとんど例のない特殊な形の土器です。南九州で独自に発生したと考えられ、上野原遺跡で用いられていた頃が文様・形状ともに最も美しいと言われています。また、土器の厚さはうすく仕上げられており、当時の土器製作技術の高さが窺えます。この土器は、広く南九州一帯に分布しており、平底の特徴など南九州の独自性が濃い土器として知られています。

レモン形土器が見つかった遺跡

遺跡名	市町村名
1 加栗山	鹿児島市
2 山崎B	湧水町
3 永野	南九州市
4 宇治野原	南さつま市
5 鷹爪野	南九州市
6 上野原	霧島市
7 大中原	南大隅町
8 桐木	曾於市
9 永迫平	日置市
10 建昌城跡	始良市
11 諏訪牟田	南さつま市
12 前原	鹿児島市
13 市ノ原	日置市
14 建山	曾於市
15 定塚	曾於市



前原遺跡出土のレモン形土器



建山遺跡出土のレモン形土器



建山遺跡出土のレモン形土器



上野原遺跡出土の土器
(手前から円筒形、
角筒形、レモン形)

用途としては、煮炊きやドングリなどのあく抜きに使われたと考えられています。

また、この時期の土器として円筒形・角筒形の土器の他に、上から見た形がレモン形をした土器があることがわかってきました。「レモン形」と呼ばれるこの土器は、口縁部の突起が角筒形は4か所であるのに対し2か所、突起のない部分は丸くカーブを描きます。底部の平底と文様の形態は、円筒形・角筒形と同じです。

③ 形の整った石皿



上野原遺跡からは、木の実を磨りつぶす道具として石皿が数多く出土しています。その一部は、わざわざ手間をかけて形を整えたもので、加栗山遺跡（鹿児島市）から出土した石皿と形が似ています。上野原遺跡のこの石皿は、完全な形のものではなく、割れた一部分が出土しています。

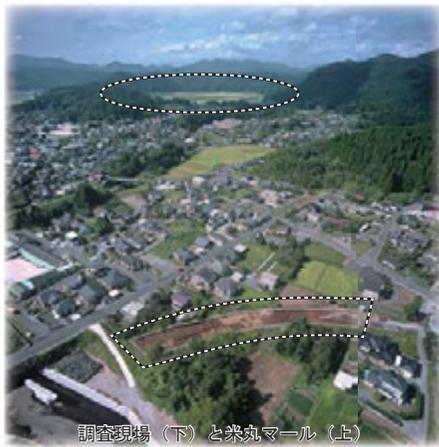
その後発掘調査された永迫平遺跡（日置市）や定塚遺跡（曾於市）からも、使い込まれた完全な形の石皿が見つかり、縄文時代早期前葉（約9,500年前）期に見られる石皿の一つの形であることが再確認されました。

この時期の大規模な集落跡からこのような石皿が見つかることは、定住が始まって、当時の人々の生活に余裕ができたからかも知れません。

いせきしょうかい 遺跡詳解

きさきばる あいら 木佐木原遺跡 (始良市)

県道伊集院蒲生溝辺線改築に伴う発掘調査を、平成27・28年度に合計9か月間実施した木佐木原遺跡を紹介いたします。発掘調査はすでに終了し、現在、報告書刊行に向けて整理作業を進めています。



調査現場 (下) と米丸マール (上)

カマド状遺構 (SL01) は、長径が約240cm、短径が約110cm、検出面からの深さが約30cmでした。炉壁・床面ともに強い熱を受けていて、多量の炭化物が出土しました。中世の土師器環と思われる小さなかけらが発見されています。この遺構は岩盤層の自然の落ち込みを利用して作られたものではないかと考えられます。



木佐木原遺跡は始良市蒲生町上久徳に所在します。標高約16mの河岸段丘上に立地しており、すぐ近くに後郷川が流れています。その川向かいの山には蒲生城跡があり、旧蒲生町のほぼ中心部に位置しています。

遺跡の北側には米丸マール (約8,000年前爆発)、青敷 (約10万年前活動)、そして住吉池 (約8,200年前爆発) という3つの火山があるのが特徴の1つで、その中の米丸マールがこの遺跡を理解する上で、非常に重要なポイントとなります。

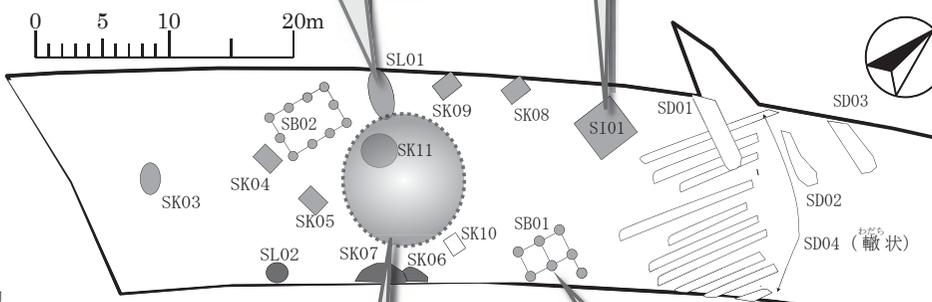
昨年度までの調査の成果として、①縄文中期後半から後期前半の遺物が大量に発見されたこと、②米丸マール噴出物の岩盤層を掘り抜いた中世遺構が発見されたこと、③液状化現象に伴う噴砂などの自然災害の痕跡が発見されたことがあげられます。



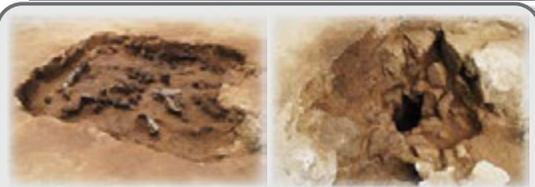
土器や石器が多数発見されました。土器の種類は、並木式、阿高式、南福寺式土器が主体で、その他にも岩崎下層式・岩崎上層式・指宿式土器も見られました。また、黒曜石でできた石鏃などの他に、小型の磨製石斧や軽石の加工品が多く発見されたのも特徴的です。

遺構配置図

SB=掘立柱建物跡 SL=炉跡
SI=竪穴建物跡 SD=溝状遺構
SK=土坑



トレンチの壁面 (地層の断面) に見られた噴砂の通り道。地表面では地震によって生じた亀裂 (右写真) から液状化した土砂が地表に噴き出したと考えられます。



竪穴建物跡 (SI01) は縦横約2mの大きさで、内部から炭化した木材が大量に発見されました。おそらく建物が焼失した跡ではないかと考えられます。床面は米丸マール噴出物の岩盤層で、四隅の柱穴に岩盤層をはがしてブロック煉瓦のように形を整えたものが入っていました (右写真)。中世の人々が、岩盤層が“板状にはがれる”という性質を利用していただことがわかります。

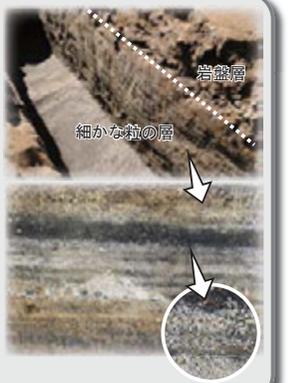


住吉池 (住吉池マール)



米丸マールと青敷

米丸マール噴出物は、細かな粒が堆積した厚さ数cmから数10cmの層が多数重なっています。さらにその最上部に溶岩のように固くなった岩盤層が堆積しています。遺跡近くの後郷川の露頭では、これらの噴出物が6m以上堆積していることがわかりました。



掘立柱建物跡 (SB01) は、2×2間の総柱となっています。柱穴 (右写真) は、米丸マール噴出物の岩盤層をきれいに掘り抜いてありました。土に比べて掘りにくい岩盤層の上に建物を建てるのは多くの時間と労力を必要としたことでしょう。

☆マールとは？
地下水とマグマが触れ合って起こるマグマ水蒸気爆発によってできた円形の火口で、その周囲に噴出物が堆積した環状の低い丘がある。



炉跡 (SL04) は、長径約2m、短径約1.5m、深さが15~20cm、内部からヘラ切りの土師器環などが見つかっています。

発掘現場公開!

平成29年6月24日(土)に大島郡瀬戸内町にある久慈白糖工場跡で発掘現場が公開されました。昨年の10月に続いて2回目となる、発掘調査の結果を広く発信するイベントです。

当日は、梅雨明け直前ながら天気に恵まれ、139名の見学者が訪れました。また、会場では地域の方々のおもてなしもあり、終日賑わっていました。

県立埋蔵文化財センターでは、幕末

から明治期の産業遺産の実態を解明するために、平成27年度から「かごしま近代化遺産調査事業」に取り組んでいます。久慈白糖工場跡の発掘調査も、この事業の一環として行われました。

文献や久慈集落の伝承から、今回の調査区内に白糖工場があったとされています。しかし、今まで本格的な発掘調査は行われておらず、正確な位置などは分かっていませんでした。

久慈白糖工場跡の実態解明を目指した、平成28年度の調査で、白糖工場の施設の一部と考えられる方形と円形の煉瓦積遺構を発見しました。このことから、確かにこの場所に白糖工場が存在していたことが裏付けられました。そこで、今年度の調査では、方形と円形の煉瓦積遺構の性格を把握することや他の施設、白糖工場建物の壁や基礎部分などを発見することで工場の範囲を確定させること目指しました。

今回の調査では、方形煉瓦構築物の下部構造がおおまかに把握でき、新たに煉瓦敷遺構(下写真)を発見することができました。今後、これらの遺構の性格などについて詳しく検討を行い、久慈白糖工場を解明していく予定です。

※当日のパンフレットは当センターのホームページからダウンロードできます。

(<http://www.jomon-no-mori.jp/mbnworks.html>)



久慈白糖工場跡



地域の方々のおもてなし



展示された遺物に興味津々



遺物の説明



遺構の説明



一回目の説明開始



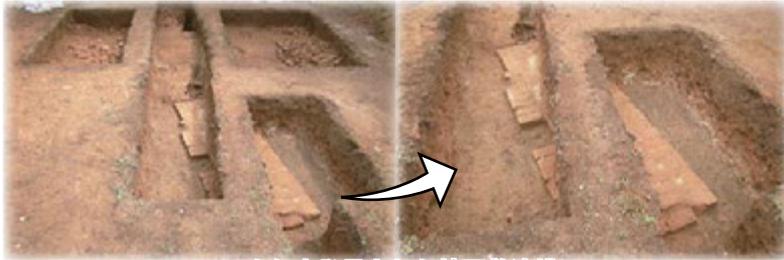
煉瓦の説明



遺構の説明



文字の刻まれた煉瓦



今年度発見された煉瓦敷遺構



当センターの見学は、土曜・日曜・祝日・年末年始を除き、毎日午前9時～午後5時まで、入館料は無料です。

なお、当センターのホームページは、鹿児島県 (<http://www.pref.kagoshima.jp/>) または、上野原縄文の森 (<http://www.jomon-no-mori.jp/>) からお入りください。

検索キーワード
上野原縄文の森

検索

埋文だより 第74号

発行日 平成29年10月31日
編集・発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-4318 鹿児島県霧島市
国分上野原縄文の森2番1号
TEL 0995-48-5811・FAX 0995-48-5820
URL: <http://www.jomon-no-mori.jp>
E-mail: maibun@jomon-no-mori.jp